

一般社団法人日本ソフトウェア科学会 2024 年度定時社員総会

- 日 時 2024 年 6 月 20 日 (木) 18:00 ~ 19:00
- 場 所 オンライン開催
- 議 案
 - 第 1 号議案 2023 年度事業報告の承認の件
 - 第 2 号議案 2023 年度決算の承認の件
 - 第 3 号議案 2024~2025 年度役員を選任の件
- 報告事項
 - 2024 年度事業計画の件
 - 2024 年度予算の件

以上



2023 年度事業報告

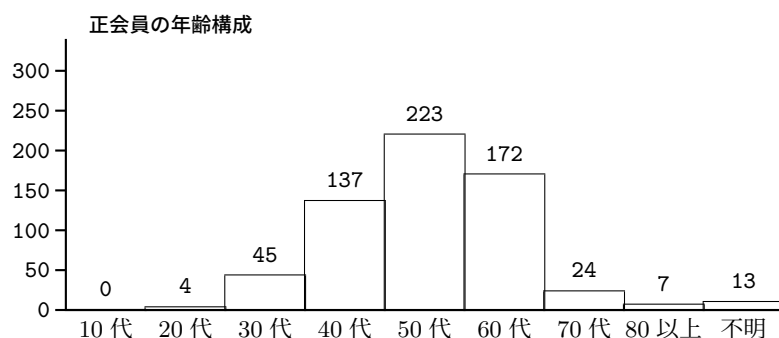
1. 会員

2024 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである。

正会員	625名	準会員	16名
名誉会員	19名	団体会員	4団体
学生会員	21名	賛助会員	3社

2023 年 3 月 31 日時点での正会員数は 649 名であり、そこから 24 名減少したことになる。

正会員の年齢構成を次のグラフに示す。50 才以上の正会員が 68%程度、40-49 才の正会員が 22%程度、30-39 才の正会員は 7%程度である。なお、20 代の正会員が少ないが、20 代の会員の多くは学生会員であると想定される。



2. 会議の開催

2.1 総会（2023 年度）

日 時： 2023 年 6 月 29 日（木）18:00～19:00

場 所： オンライン

出席者： 代表会員 35 名（委任状を含む）（代表会員総数 46 名）

議 案： 第 1 号議案 2022 年度事業報告の承認の件

第 2 号議案 2022 年度決算の承認の件

第 3 号議案 2023-2024 年度役員選任の件

議決の定数を超える 35 名（委任状を含む）の出席があり、理事長を議長に、第 1 号議案、第 2 号議案を審議し、決算が適正であるとの 2022 年度監事の報告を受けて、満場一致でこれらを承認した。続いて第 3 号議案について審議し、役員候補者選挙で選出された役員候補者を役員として選任することも満場一致で議決した。

なお、通常行われる総会終了後の名誉会員記の授与式は、大会にて行われることとなった。

2.2 理事会・役員会

理事会は、第 63 回（2023-05-15）から第 67 回（2024-03-27）まで 5 回開催した。役員会は、第 84 回（2023-05-15）から第 90 回（2024-03-27）まで 7 回開催した。2023 年度の理事及び監事は次の通りである。

理事長 高田広章

副理事長 沢田篤史

理 事 五十嵐淳 五十嵐悠紀 鶴川始陽

川端英之 栗原一貴 小林隆志
齋藤新 西崎真也 前田俊行
松原繁夫 森本千佳子 吉田則裕
監 事 位野木万里 岸知二

2.3 評議員会

2023 年度評議員会をオンラインにて開催し（2023-10-05）、学会運営について討議した。評議員会開催時における評議員は次の通りである。

井上克郎 上田和紀 大沢英一 大須賀昭彦 大堀淳
笈捷彦 加藤和彦 亀山幸義 佐々政孝 佐藤周行
柴山悦哉 高橋和子 田中二郎 玉井哲雄 中島震
中島秀之 深澤良彰 二木厚吉 本位田真一 増原英彦
丸山宏 米崎直樹

3. 事業

3.1 機関誌編集

第 370 回（2023-05-23）、第 371 回（2023-07-28）、第 372 回（2023-12-12）、第 373 回（2024-01-29）の 4 回の編集委員会を開催し、学会誌「コンピュータソフトウェア」第 40 巻第 2～4 号および第 41 巻第 1 号を発行した。うち、第 40 巻第 2 号、第 3 号および第 41 巻第 1 号はサイバー増大号であり、冊子体とサイバーページ（電子出版）から構成した。また、「プログラミングおよびプログラミング言語」（第 40 巻第 2 号）、「ソフトウェア工学の基礎」（第 40 巻第 4 号）、「ソフトウェア論文」（第 41 巻第 1 号）の特集を組んだ。

第 28 回研究論文賞として、以下の 2 件を選定した。

- ・山本雅基，小林隆志，宮地充子，沢田篤史，岡村耕二，佐藤和彦，奥野拓，桑野文洋，井上克郎：「大学学部生を対象とした実践的 IT 人材育成プログラム enPiT2 における教育効果の測定と評価」Vol. 39 No. 2 (2022)
- ・都築夏樹，吉田則裕，戸田航史，藤原賢二，山本椋太，宮木龍，高田広章：「カバレッジに基づくファジングツールの比較評価」Vol. 39 No. 2 (2022)

また、第 8 回ソフトウェア論文賞として、以下の 1 件を選定した。

- ・千葉滋：「コンピュータソフトウェア誌の査読支援システム」Vol. 39 No. 1 (2022)

2023 年度の編集委員会の構成は次の通りである。

編集委員長 河野健二
編集副委員長 沢田篤史 林晋平
編集担当理事 鶴川始陽 川端英之
編集委員 青木利晃 阿萬裕久 五十嵐悠紀 石井大輔 伊藤恵
岩崎英哉 馬谷誠二 河合栄治 河内谷清久仁 桑野文洋
小宮常康 島慶一 杉浦裕太 住井英二郎 宋剛秀
高田眞吾 千葉滋 中野圭介 花川典子 松井俊浩
松田一孝 松野裕 松原克弥 門田暁人 山田浩史
横山大作 吉田則裕_脇田建

3.2 企画委員会

2024年3月14日にオンラインで企画委員会を開催した。

2023年度の企画委員は次の通りである。

企画委員長 松原繁夫
企画担当理事 五十嵐淳 松原繁夫
企画委員 五十嵐淳 大嶽智裕 木下修司 佐藤直人
西山勇毅 前田直人 松原繁夫 横山大作

研究会リエゾン委員

阿萬裕久 (FOSE) 井垣宏 (rePiT) 伊藤貴之 (ISS)
鎌田篤慎 (MLSE) 栗原聡 (EIN) 東藤大樹 (MACC)
渡部卓雄 (PPL) 松野裕 (DSW)

3.3 大会

2023年9月12日～9月14日に、第40回大会を開催した。大会前日の9月11日には大会併設イベントとしてチュートリアル企画、PPLサマースクールを開催した。

基調講演、基礎研究賞特別講演を企画した他、登壇発表トラックにおいては研究会セッションを設けず、一般発表とソフトウェア論文の別のみを設けた。また、デモ・ポスターセッションを設けた。第40回という節目の年であることから、40周年記念パネル、40周年企画セッション「若手研究者特別講演」を企画した。基礎研究賞特別講演は第32回大会で、導入したものを継承したものである。第27回大会で導入した学生奨励賞および第34回大会で導入した優秀発表賞も継承した他、今回新たに、優秀デモ・ポスター賞を設けた。さらに、第34回大会で導入したスポンサー募集も継承し、9社からの支援を得た。本年初の試みとして、多くの参加者に現地参加していただき、スポンサーブースを訪問していただくために学生参加者を対象としてスポンサーブースシールラリーを企画した。

大会参加者（参加申込実績に基づく）は、296名（正会員91名、学生会員4名、一般非会員17名、学生非会員178名、その他招待枠6名）であり、その他、基調講演者2名、スポンサー枠（展示担当者および無料招待者）24名であった。発表件数は、基調講演2件（丸山宏氏、原田康徳氏）、トップカンファレンス特別講演9件、登壇発表セッション59件、デモ・ポスタートラックに8件であった。大会前日の9月11日には、学会の企画委員会によるチュートリアル企画「試して作って知る ライブプログラミング入門」を開催し、139名の参加者を得た。また、PPL研究会によるサマースクール企画「正規表現研究の最先端」には、160名の参加者を得た。

講演論文集はWebサイトで公開した。この論文集は、大会終了後、オンライン資料として国立国会図書館に納入した。講演論文集はWebサイトで公開した。この論文集は、国立国会図書館による定期収集によりオンライン資料として納入されている。

大会における優れた登壇発表に対して与えられる高橋奨励賞は、次の2件である。

- ・日高宗一郎（法政大学）：「An Adaptation Framework for View-based Data Sharing in Bipartite Network of Bidirectional Transformations」
- ・奥田 勝己（マサチューセッツ工科大学 / 三菱電機）：「大規模言語モデルを用いたプログラミングを支援する言語機構」

学生奨励賞は、次の8件である。

- ・眞田 嵩大（京都大学）：「アローに対する代数的エフェクトとエフェクトハン

ドラ」

- ・ Kengo Irie (Graduate School of Informatics, Kyoto University): 「Active Learning of Symbolic Mealy Machines」
- ・ 坂本 晋太郎 (群馬大学): 「GPT を用いたデスクトップ・エージェント・システムの開発」
- ・ 小林 亮太 (東京大学): 「SATySFi におけるドメイン固有型エラー診断」
- ・ 前島 文香 (東京大学): 「対話性と十分な実行速度を両立した組み込みマイコン向け開発環境の提案」
- ・ 酒井 大我 (Tokyo Institute of Technology): 「プログラミング教育のための目的文作成手順の提案と目的文作成支援環境の予備設計」
- ・ 廣瀬 雄一 (京都大学): 「解釈が容易な特徴量を用いた Feature Attribution に基づく将棋 AI の指し手の解釈可能性向上手法」
- ・ 田中 英武 (大阪工業大学): Few-Shot Prompting を用いた言語系生成 AI によるプログラミング演習問題の自動生成手法の検討

優秀発表賞は、次の 8 件である。

- ・ Shin-Ya Katsumata (National Institute of Informatics): 「A Categorical Framework for Program Semantics and Semantic Abstraction」
- ・ 眞田 嵩大 (京都大学): 「アローに対する代数的エフェクトとエフェクトハンドラ」
- ・ Makoto Hamana (Gunma University): 「Automatic Correctness Checking of Haskell' s Rewrite Rules: Theory and Practice」
- ・ Kengo Irie (Graduate School of Informatics, Kyoto University): 「Active Learning of Symbolic Mealy Machines」
- ・ 坂本 晋太郎 (群馬大学): 「GPT を用いたデスクトップ・エージェント・システムの開発」
- ・ 上野 雄大 (新潟大学): 「Minissg: 小さく軽量で規約のない静的 Web サイトジェネレータ」
- ・ 小林 亮太 (東京大学): 「SATySFi におけるドメイン固有型エラー診断」
- ・ 前島 文香 (東京大学): 「対話性と十分な実行速度を両立した組み込みマイコン向け開発環境の提案」

優秀デモ・ポスター賞は、次の 3 件である。

- ・ Clovis Eberhart (National Institute of Informatics): 「Formal Verification of Automated Driving: RSS and Safety」
- ・ 北澤 玲央 (工学院大学): 「生体情報に基づくデザイン思考要求獲得手法の提案」
- ・ 本田 澄 (大阪工業大学): 「リファクタリングのメリットを提示することによる効果の分析に向けた試み」

第 40 回大会の役員は次の通りである。本大会では第 34 回で導入したプログラム副委員長を設けた。

大会委員長	千葉 滋
運営委員長	鶴川 始陽
運営副委員長	高瀬 英希, 森口 草介, 佐藤 亮介
プログラム委員長	末永 幸平
プログラム副委員長	松原 克弥, 和賀 正樹

プログラム委員

五十嵐淳 五十嵐悠紀 稲葉一浩 今井健男
岩崎英哉 沢田篤史 志築文太郎 末永幸平
東藤大樹 福安直樹 前田俊行 松原克弥
横山大作 和賀正樹

大会担当理事 五十嵐悠紀 小林 隆志

3.4 講習会

2023 年度大会併設イベントとして 2023 年 9 月 11 日に加藤 淳氏（産業技術総合研究所）、橋本 麦氏（産業技術総合研究所）を講師として「試して作って知る ライブプログラミング入門」と題した現地・リモートのハイブリッド形式によるチュートリアルを開催した。

3.5 研究会

2023 年度は、次の 8 研究会が活動した。各研究会の主な活動は下記の通りである。

(1) 「プログラミング論」研究会 (主査：中野 圭介)

2023 年度運営体制

a) 主査

中野 圭介 (主査: 東北大学)

b) リエゾン企画委員

渡部 卓雄 (東京工業大学)

c) 運営委員

稲葉 一浩 (Google), 上野 雄大 (新潟大学), 海野 広志 (筑波大学), 江本 健斗 (九州工業大学), 小宮 常康 (電気通信大学), 寺内 多智弘 (早稲田大学), 中野 圭介 (主査: 東北大学), 平石 拓 (京都橘大学), 松田 一孝 (東北大学), 渡部 卓雄 (東京工業大学)

第 40 回大会プログラム協力, トップカンファレンス特別講演, 若手研究者特別講演の実施

研究会コーディネータ: 稲葉 一浩 (Google)

PPL 関係の 11 セッションについて PPL 運営委員が座長となり, 大会運営に協力した。

また, 2 件のトップカンファレンス特別講演と 2 件の若手研究者特別講演の推薦を行った。

第 20 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2023) の主催

日時: 2023 年 9 月 11 日 (火) 9:35~12:55

場所: 東京大学本郷キャンパスおよびオンラインのハイブリッド開催 (日本ソフトウェア科学会第 40 回大会 併設)

テーマ: 正規表現研究の最先端

講師: 千田 忠賢 (NTT 社会情報研究所), 南出 靖彦 (東京工業大学) 幹事: 稲葉 一浩 (Google)

参加登録費: 一般会員 1,000 円, 一般非会員 2,000 円, 学生 (会員・非会員を問わず) 無料

参加人数：160名（一般会員39名，一般非会員14名，学生会員4名，学生非会員103名）

第26回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2023) の主催

日時・場所：2024年3月5日(火)～7日(木)・朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
プログラム共同委員長：安部 達也 (千葉工業大学), 川端 英之 (広島市立大学) 組織委員長：木村 大輔 (東邦大学)

開催形式：ハイブリッド開催 (オンラインでは Zoom, Slack を利用) カテゴリ 1～4 の発表と招待講演で構成.

参加登録費：一般会員 5,000 円, 一般非会員 10,000 円, 学生 (会員・非会員を問わず) 無料

参加人数：一般会員 69 名, 一般非会員 39 名, 学生 141 名, その他 8 名 (学生については会員・非会員の別を収集していない. また, その他の内訳は招待講演者 2 名, スポンサー参加 6 名を除く)

発表数：招待講演 2, カテゴリ 1 (国内外で未発表の論文の発表) 20, カテゴリ 2 (国際会議・学術雑誌等で既発表の論文の紹介) 10, カテゴリ 3 (ポスター・デモ発表) 67, カテゴリ 4 (サーベイ・チュートリアルの発表) 1.

(2) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査：大園忠親)

2023 年度運営体制

a) 主査

大園忠親 (名古屋工業大学)

b) リエゾン企画委員

東藤大樹 (九州大学)

c) 運営委員

櫻井祐子 (名古屋工業大学)

清雄一 (電気通信大学)

松井俊浩 (名古屋工業大学)

合同エージェントワークショップ&シンポジウム 2023 (JAWS2023) 開催 (情報処理学会 ICS 研究会、人工知能学会データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会、電子情報通信学会人工知能と知識処理専門委員会、IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter との共催)

日時：2023年9月12～14日

会場：北海道登別市 登別グランドホテル (ハイブリッド)

参加者数 100

(発表数 83)

Symposium on Multi Agent Systems for Harmonization 2024 Winter Symposium (SMASH24 Winter Symposium) 開催 (情報処理学会 ICS 研究会、人工知能学会データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会、電子情報通信学会人工知能と知識処理専門委員会、IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter との共催)

日時：2024年2月29日, 3月1日

会場：愛知県名古屋市 名古屋工業大学

参加者数 30

(発表数 22)

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査: 志築文太郎)

2023 年度運営体制

a) 主査

志築 文太郎 (筑波大)

b) リエゾン企画委員

伊藤 貴之 (お茶大)

c) 運営委員

綾塚 祐二 (クレスコ), 五十嵐 悠紀 (お茶大), 伊藤 貴之 (お茶大), 栗原 一貴 (津田塾大), 寺田 努 (神戸大), 丸山 一貴 (明星大), 宮下 芳明 (明治大), 脇田 建 (東工大)

第 31 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS

2023) 主催

日時: 2023 年 11 月 29 日 (水)~12 月 1 日 (金)

場所: Royal Hotel 八ヶ岳

プログラム委員長: 志築 文太郎 (筑波大)

実行委員長: 中野 倫靖 (産総研)

副実行委員長: 渡邊 恵太 (明治大)

その他

- ・コンピュータソフトウェア誌への WISS 2023 推薦論文の提案
(WISS2023 の採録論文のうち 7 件について著者へ投稿を推奨した)
- ・HCG シンポジウム 2023 に協賛
- ・情報処理学会インタラクシオン 2024 に協賛

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査: 沢田篤史)

2023 年度運営体制

a) 主査

沢田 篤史 (南山大学)

b) リエゾン企画委員

阿萬 裕久 (愛媛大学)

第 30 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2023

日時: 2023 年 11 月 9-11 日

場所: 伊勢志摩国立公園/鳥羽温泉郷 戸田家

プログラム委員長:

吉田 則裕, 槇原 絵里奈 (立命館大学)

出版委員長:

藤原 賢二 (東京都市大学)

30 周年企画委員長:

名倉 正剛 (南山大学)

主催: 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会

共催: IEEE Computer Society Japan Chapter

協賛: 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会

電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会

電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究会

発表論文数：フルペーパー 7 件，ショートペーパー 18 件，
ライブ論文 26 件，デモ・ポスター 26 件
合計 77 件

参加者数：119 名

参加内訳：一般・会員 28 名，一般・非会員 18 名
学生・会員 1 名，学生・非会員 72 名

コンピュータソフトウェア誌への研究会推薦論文：

通常論文として 4 件，レター論文として 7 件を推薦。

コンピュータソフトウェア「ソフトウェア工学の基礎」特集号

特集号編集委員：沢田 篤史（代表者，南山大学），吉田 則裕（ゲストエディタ，立命館大学），榎原 絵里奈（ゲストエディタ，立命館大学），阿萬 裕久（愛媛大学），門田 暁人（岡山大学），花川 典子（阪南大学），高田 真吾（慶應義塾大学）

投稿数：12 件（通常 7 件 レター 5 件）

FOSE2023 開催報告（トピックス）

(5) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田俊行）

昨年度までより引き続き，ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的に活動を行った。

主査：前田 俊行（千葉工業大学）

運営委員：石井 大輔（北陸先端科学技術大学院大学），松野 裕（日本大学），大場 勝（日産自動車），木下 修司（東京都立産業技術大学院大学），松原 克弥（公立はこだて未来大学）

第 21 回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2023) の開催

日時：2023 年 12 月 14 日（木）・15 日（金）

場所：筑波大学筑波キャンパス およびオンライン

幹事：木下 修司，石井 大輔，大場 勝，松野 裕，松原 克弥

本分野の研究者間・学生間のつながりの構築を目指してワークショップを開催した。8 件の発表があった。また 1 件の招待講演を行った。

(6) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原聡）

2023 年度運営体制

a) 主査：栗原聡（慶應義塾大学）

主幹事 風間一洋（和歌山大学），鳥海不二夫（東京大学）

b) リエゾン企画委員

栗原聡（慶應義塾大学）

c) 運営委員：風間一洋（和歌山大学），内藤祐介（人工生命研究所），中島秀之（札幌市立大学），廣津登志夫（法政大学），松尾豊（東京大学）

2023 年度活動報告.

WSSIT への合流参加

日程：2024 年 3 月 2 日-5 日（SIG-EIN は 3 日に実施）

場所：北海道ルスツリゾートホテル

WSSIT（Workshop of Social System and Information Technology：社会システムと情報技術研究ウィーク）は，人工知能学会「知識ベースシステム研究会」「社会における AI

研究会」「データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会」、情報処理学会「知能システム研究会（旧知能と複雑系研究会）」、電子情報通信学会「人工知能と知識処理研究会」、情報処理学会「行動変容と社会システム研究会」、社会情報学会関西支部の7つの研究会に加え、2022年度開催より日本ソフトウェア科学会「ネットワークが創発する知能研究会（SIG-EIN）」も加わっての連続開催体制となった。今年度はSIG-EINからは5件の発表となった。来年も実施予定である。

(7) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査：福安 直樹)

研究会運営委員会の構成

主査：

福安 直樹（大阪工業大学）

リエゾン企画委員：

井垣 宏（大阪工業大学）

運営委員：

市川 尚（岩手県立大学）

伊藤 恵（公立はこだて未来大学）

大久保 隆夫（情報セキュリティ大学院大学）

大場 みち子（京都橘大学）

桑野 文洋（日本工業大学）

田原 康之（電気通信大学）

名倉 正剛（南山大学）

橋本 正樹（情報セキュリティ大学院大学）

樫山 淳雄（東京学芸大学）

藤原 賢二（東京都市大学）

本田 澄（大阪工業大学）

槇原 絵里奈（立命館大学）

森本 千佳子（東京理科大学）

吉岡 信和（早稲田大学）

吉田 則裕（立命館大学）

第 10 回実践的 IT 教育研究シンポジウムの主催

日程：2024 年 2 月 3 日（土）～2 月 4 日（日）

開催場所：京都橘大学

主催：日本ソフトウェア科学会 実践的 IT 教育研究会

2/3（土）

13:20-13:30 Opening

13:30-14:40 セッション 1 [座長：佐伯 幸郎（高知工科大学）]

[1-1S] 競争型のソフトウェア開発 PBL に対する継続的競争フレームワークの試作と評価

藪下 友， 杉本 真佑， 楠本 真二（大阪大学）

[1-2S] ALRIGHT: ソフトウェア開発 PBL での設計文書インスペクションの振り返りを支援する可視化アプリケーションの開発

佐藤 央， 樫山 淳雄（東京学芸大学）， 橋浦 弘明（日本工業大学）

[1-3L] ソフトウェア開発 PBL における i コンピテンシディクショナリと Sentence-BERT を用いた獲得スキル可視化支援システムの試作

近藤 羽音 (東京学芸大学), 橋浦 弘明 (日本工業大学), 樋山 淳雄 (東京学芸大学)

14:50-15:50 基調講演 [座長: 福安 直樹 (大阪工業大学)]

チェンジメーカー育成のための教育手法「ReBaLe (レバレ)」の提案と実践

井上 明 (大阪工業大学)

16:00-17:10 セッション 2 [座長: 井垣 宏 (大阪工業大学)]

[2-1S] PBLにおけるタスク管理技術の自発的習得を目的とした WBS ツールの試作
玉置 文人, 柏本 真佑, 楠本 真二 (大阪大学)

[2-2S] アジャイル開発におけるプロダクトオーナー育成支援 ワークショップの実践
歌田 夢香, 加藤 輝実 (大日本印刷), 山口 琢 (公立はこだて未来大学), 大場 みち子 (京都橘大学), 新美 礼彦 (公立はこだて未来大学)

[2-3L] プロダクト・オーナーによるプロダクト・バックログの優先順位付け操作の分析
山口 琢 (公立はこだて未来大学), 歌田 夢香, 加藤 輝実 (大日本印刷), 新美 礼彦 (公立はこだて未来大学), 大場 みち子 (京都橘大学)

2/4 (日)

9:40-10:40 セッション 3 [座長: 市川 昊平 (奈良先端科学技術大学院大学)]

[3-1S] インタビュー調査でのリアルタイム表情認識ツール利用の提案

石田 一真, 森本 千佳子 (東京理科大学)

[3-2S] インタビューおよびインサイト分析における音声認識 アプリケーションの有効性の検討

西川 龍, 森本 千佳子 (東京理科大学)

[3-3S] オンライングループディスカッション参加者の発話量可視化手法の検討

金澤 拓己, 井垣 宏 (大阪工業大学)

10:50-12:00 セッション 4 [座長: 森本 千佳子 (東京理科大学)]

[4-1S] メンタリングログのフィードバックが与える学習行動への効果に関する検討
木河 龍臣, 妻鳥 貴彦 (高知工科大学)

[4-2S] 個人開発者のための Bot による Git 及び GitHub を用いたチーム開発学習支援システムの検討

田中 秀, 井垣 宏 (大阪工業大学)

[4-3L] 多様な問題パターンおよび難易度を考慮した言語系生成 AI によるプログラミング演習問題自動生成手法の検討

前田 悠翔, 田中 英武, 井垣 宏, 福安 直樹 (大阪工業大学)

12:00-12:20 Closing

コンピュータソフトウェア「実践的 IT 教育」特集号

rePiT シンポジウム 2023 と連動した「実践的 IT 教育」特集号を発行 (2024 年 5 月刊行予定).

rePiT シンポジウム 2024 と連動した特集号を企画 (2024 年 6 月 30 日投稿締切).

(8) 「機械学習工学」研究会 (主査: 今井健男)

2023 年度運営体制

a) 主査

今井 健男 (ぼのたけ/国立情報学研究所)

b) リエゾン企画委員

鎌田 篤慎 (ヤフー)

c) 運営委員

石川 冬樹 (国立情報学研究所), 鶴林 尚靖 (九州大学), 江澤 美保 (株式会社クレスコ), 鎌田 篤慎 (LINE ヤフー), 竹内 広宜 (武蔵大学), 土肥 拓生 (ライフマティクス), 橋本 順之 (グリー), 原 聡 (大阪大学), 丸山 宏 (Preferred Networks), 吉岡 信和 (国立情報学研究所), 吉崎 亮介 (キカガク), 吉田 則裕 (立命館大学)

2023 年活動報告

2023/06/29-07/01 第6回機械学習工学ワークショップ (MLSE 夏合宿 2023) 2024/02/29-03/02 MLSE 冬合宿 2024 他, WG 集会, MLSE 論文読み会を実施

3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった。

共催：0件 協賛：11件 後援：2件

3.7 広報関係

本学会の Web ページ (<http://www.jsst.or.jp/>) および会員メーリングリスト (jsst_members@jsst.or.jp) を通じて、会員への情報提供を行った。Twitter のアカウント (JSSST_Info) を通じた広報活動も継続している。授賞については、Web ページ、Twitter を通じて、なるべく早く公知している。

3.8 基礎研究賞・業績賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた者に対して基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた。2023 年度には、ソフトウェア分野におけるその他の顕著な業績を挙げた者に対して業績賞を授与しその功績を称える制度を設け、基礎研究賞とあわせて毎年 2 件程度を選定することとした。2023 年度は、以下の 2 名を基礎研究賞受賞者に選定した。

- ・松本健一氏 (奈良先端科学技術大学院大学)

授賞業績: ソフトウェア工学, 特に実証的ソフトウェア工学に関する研究

授賞理由: 松本健一氏は長年にわたりソフトウェアのバグ予測の研究を続けてきており、数多くの重要な研究成果を発表してきている。その中のひとつとして、バグの発生予測を行う判別モデルの研究がある。この分野では、今まで数多くの研究が行われてきているが、モデルのパラメータの調整が難しいためほとんどがデフォルト値を用いて研究が行われていた。松本健一氏は、最適なパラメータの自動生成アルゴリズムを開発し、判別モデルの性能を大きく向上させることに成功した [1,2]。また、バグ発生予測モデルの評価方法の検証に関する重要な研究も行なっている。過去の多くの研究では単純な single-repetition holdout 法が用いられているが、この方法はバイアスや変動が大きく安定しないことを示し、out-of-sample bootstrap 法の利用が推奨されるべきであることを示した [3]。さらに、コードレビューを行うべき適切な開発者を発見する手法の開発も行なっている。この手法は、過去にレビューされたファイルのパスの類似性を利用して適切な開発者の特定を行っており、実証実験により正確に開発者の特定を行えることを示した [4]。松本健一氏は、早くから海外の研究者との連携を積極的に進めて数多くの留学生やインターン生を受け入れ、これらの実証的ソフトウェア工学の研究を強力に推進する体制を築いてきており、ソフトウェア工学の研究推進に多大な貢献をしてきた。以上の顕著な業績と貢献により、日本ソフトウェア科学会は、松本健一氏に基礎研究賞を授与することとした。

出典:

1. Chakkrit Tantithamthavorn, Shane McIntosh, Ahmed E. Hassan, Kenichi Matsumoto: Automated parameter optimization of classification techniques for defect prediction models. ICSE 2016: 321-332.
2. Chakkrit Tantithamthavorn, Shane McIntosh, Ahmed E. Hassan, Kenichi Matsumoto: The Impact of Automated Parameter Optimization on Defect Prediction Models. IEEE Trans. Software Eng. 45(7): 683-711 (2019).
3. Chakkrit Tantithamthavorn, Shane McIntosh, Ahmed E. Hassan, Kenichi

Matsumoto: An Empirical Comparison of Model Validation Techniques for Defect Prediction Models. *IEEE Trans. Software Eng.* 43(1): 1-18 (2017).

4. Patanamon Thongtanunam, Chakkrit Tantithamthavorn, Raula Gaikovina Kula, Norihiro Yoshida, Hajimu Iida, Ken-ichi Matsumoto: Who should review my code? A file location-based code-reviewer recommendation approach for Modern Code Review. *SANER 2015*: 141-150.

・小池英樹氏 (東京工業大学)

授賞業績: Vision-based Human-Computer Interaction に関する研究

授賞理由: 小池英樹氏は長くにわたり Human-Computer Interaction, 特に Vision-based HCI に従事し国内外で多くの成果を上げてきた。フラクタルの概念を用いた大規模情報提示手法 [1] では日本ソフトウェア科学会高橋奨励賞を受賞した。インタラクティブサーフェスに関する数多くの先進的研究を行い, EnhancedDesk[2] では実時間手指認識および実物体と電子情報の融合, 液晶の偏向に着目した透明マーカー [2] や圧力検知可能な3次元タッチディスプレイ PhotoelasticTouchj を開発, 水面へのプロジェクションと手指認識を組み合わせた AquaTop Display では国際展示会 Laval Virtual で Grand Prix を受賞した。近年はコンピュータビジョンと拡張現実を用いた技能獲得支援のための基盤・応用システムを研究し, 胸装着カメラによる身体・頭部姿勢認識 [4], 腕装着カメラによる手指姿勢認識 [5], 細径人工筋肉を用いた力覚フィードバックグローブ [6] を実現した。小池氏は国際会議 ACM Interactive Surface and Systems や Augmented Humans の Steering Committee や General Chair 等を務め, 国内では日本ソフトウェア科学会 WISS を立ち上げ, インタラクティブシステムとソフトウェア研究会 (ISS: Special Interest Group on Interactive Systems and Software) の主査をはじめ国内外の HCI 界をリードしてきた。以上の顕著な業績と貢献により, 日本ソフトウェア科学会は, 小池英樹氏に基礎研究賞を授与することとした。

出典:

1. Hideki Koike : Fractal Views: A Fractal-Based Method for Controlling Information Display, *ACM Trans. on Information Systems*, Vol.13, No.3, pp.305-323, 1995.
2. Hideki Koike, Yoichi Sato, Yoshinori Kobayashi, Integrating paper and digital information on EnhancedDesk: a method for real-time finger tracking on augmented desk system, *ACM Trans. On Computer Human Interaction*, Vol.8, Issue 4, pp.307-322, 2001.
3. Hideki Koike, Wataru Nishikawa, Kentaro Fukuchi, Transparent 2-D Markers on an LCD Tabletop System, *ACM Human Factors in Computing Systems (CHI 2009)*, pp.163-172, 2009.
4. Dong-Hyun Hwang, Kohei Aso, Ye Yuan, Kris Kitani, Hideki Koike, Mono-Eye: Multimodal Human Motion Capture System Using A Single Ultra-Wide Fisheye Camera, *ACM User Interface Software and Technology (UIST2020)*, pp.98-111, 2020.
5. Erwin Wu, Ye Yuan, Hui-Shyong Yeo, Aaron Quigley, Hideki Koike, Kris M. Kitani, Back-Hand-Pose: 3D Hand Pose Estimation for a Wrist-worn Camera via Dorsum Deformation Network, *ACM User Interface Software*

and Technology (UIST2020), pp.1147-1160, 2020.

6. N. Takahashi, S. Furuya and H. Koike, Soft Exoskeleton Glove with Human Anatomical Architecture: Production of Dexterous Finger Movements and Skillful Piano Performance, in IEEE Transactions on Haptics. Vol.13, Issue 4, pp.679-690, 2020. (IEEE Transactions on Haptics Best Application Paper)

2023年度の基礎研究賞・業績賞選定委員会の構成は次の通りであった。

高田広章 (理事長), 河野健二 (編集委員長),
井上克郎, 五十嵐健夫, 大須賀昭彦, 増原英彦, 丸山宏

4. 選挙

2024年度定時社員総会で任期満了となる役員に対する選挙は、2023年11月10日より2024年1月5日まで候補の推薦を受け付けた。その結果、役員選挙候補者（理事）として7名、役員選挙候補者（監事）として1名の立候補があった。全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され、正会員による投票に付された。投票は、2024年3月1日から2024年3月14日までの期間に行われた。同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた。結果は次の通りであった。

役員候補者（理事）選挙 選出

阿萬裕久 五十嵐悠紀 小林直樹
松原繁夫 松野裕 森本千佳子
吉田則裕

役員候補者（監事）選挙 選出

位野木万里

役員候補者選考委員 信任

大沢英一 大須賀昭彦 小野寺民也 千葉滋 丸山宏

役員選挙候補者（理事・監事）全員がそれぞれ、社員総会における役員選任の対象候補者として選出され、また、役員候補者選考委員全員が信任を受けた。

なお、この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りである。

選挙管理委員会

河野健二 佐藤周行 吉岡信和

収支計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
1. 事業活動収入			
学会本部事業	14,400,000	14,868,598	△ 468,598
入会金・会費収入	8,900,000	8,874,000	26,000
大会収入	2,400,000	2,708,256	△ 308,256
機関誌収入	2,700,000	3,113,000	△ 413,000
講習会収入	200,000	48,745	151,255
雑収入	200,000	124,597	75,403
基礎研究賞事業	200,000	0	200,000
基礎研究賞副賞収入	200,000	0	200,000
研究会事業	19,251,000	20,680,117	△ 1,429,117
PPL	6,000,000	2,817,347	3,182,653
MACC	100,000	0	100,000
ISS	8,001,000	11,182,032	△ 3,181,032
FOSE	4,000,000	5,564,938	△ 1,564,938
DSW	600,000	87,000	513,000
EIN	100,000	0	100,000
rePiT	100,000	114,400	△ 14,400
MLSE	350,000	914,400	△ 564,400
事業活動収入計	33,851,000	35,548,715	△ 1,697,715
2. 事業活動支出			
学会本部事業	16,030,000	15,389,093	640,907
研究活動費	320,000	140,000	180,000
大会業務費	2,200,000	1,822,989	377,011
機関誌購入費	8,670,000	8,771,906	△ 101,906
機関誌業務費	850,000	528,792	321,208
講習会業務費	200,000	0	200,000
委託手数料	250,000	301,694	△ 51,694
租税公課	120,000	490,000	△ 370,000
事務局費	2,600,000	2,491,632	108,368
事務局変動費	310,000	211,195	98,805
査読システム利用費	0	132,000	△ 132,000
雑費	500,000	498,885	1,115
予備費	10,000	0	10,000
基礎研究賞事業	200,000	400,000	△ 200,000
基礎研究賞副賞支出	200,000	400,000	△ 200,000
研究会事業	19,500,000	20,299,950	△ 799,950
PPL	6,000,000	2,905,094	3,094,906
MACC	100,000	13,900	86,100
ISS	8,100,000	10,633,688	△ 2,533,688
FOSE	4,100,000	5,945,456	△ 1,845,456
DSW	600,000	81,609	518,391
EIN	100,000	0	100,000
rePiT	100,000	39,171	60,829
MLSE	400,000	681,032	△ 281,032
事業活動支出計	35,730,000	36,089,043	△ 359,043
当期収支差額	△ 1,879,000	△ 540,328	△ 1,338,672
前期繰越収支差額	42,256,677	42,256,677	0
次期繰越収支差額	40,377,677	41,716,349	△ 1,338,672

貸借対照表

2024年 3月31日現在

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	43,024,886	45,268,371	△ 2,243,485
未収金	0	6,000	△ 6,000
未収金/PPL	670,500	360,180	310,320
未収金/ISS	0	210,048	△ 210,048
流動資産合計	43,695,386	45,844,599	△ 2,149,213
資産合計	43,695,386	45,844,599	△ 2,149,213
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	504,317	2,342,653	△ 1,838,336
未払金/PPL	999,690	1,109,180	△ 109,490
未払金/FOSE	0	569	△ 569
未払金/ISS	8,480	0	8,480
未払金/大会	0	6,000	△ 6,000
前受会費	96,000	110,012	△ 14,012
預り金(源泉所得税)	20,550	19,508	1,042
未払消費税等	350,000	0	350,000
流動負債合計	1,979,037	3,587,922	△ 1,608,885
負債合計	1,979,037	3,587,922	△ 1,608,885
III 正味財産の部			
正味財産合計	41,716,349	42,256,677	△ 540,328
負債及び正味財産合計	43,695,386	45,844,599	△ 2,149,213

財産目録

2024年 3月31日現在

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金額	
(流動資産)	預金	ゆうちょ銀行振替口座	7,592,964	
		普通)三井住友/大塚	2,925,414	
		三井住友/大塚	888,429	
		(緊急対応費)		
		PayPay/すずめ	461,143	
		PayPay/すずめ(大会)	6,344,132	
		ゆうちょ/008支店	9,627,435	
		ゆうちょ/008支店	2,709,964	
		(基礎研究賞口)		
		PPL/PayPay	3,278,808	
		EIN/PayPay	17,346	
		DSW/PayPay	304,792	
		FOSE/PayPay	3,785,489	
		ISS/PayPay	3,182,632	
		MACC/PayPay	780,365	
		rePiT/PayPay	136,101	
		MLSE/PayPay	847,834	
MLSE/PayPal	142,038			
未収金/PPL	WS2024スポンサー料(助成金)	670,500		
流動資産合計			43,695,386	
資産合計			43,695,386	
(流動負債)	未払金	税理士委託手数料、2023年度業務委託費・他	504,317	
		未払金/PPL	WS2024会場費・他	999,690
		未払金/ISS	倉庫保管料	8,480
		前受会費		96,000
		預り金(源泉所得税)		20,550
		未払消費税等		350,000
流動負債合計			1,979,037	
負債合計			1,979,037	
正味財産			41,716,349	

監査報告書

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
理事長 高田 広章 殿

私は、2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- 業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。
- 事業報告書の内容は真実であると認める。
- 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

2024年 5月 13日

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

監事

位野木 万里



監査報告書

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
理事長 高田 広章 殿

私は、2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- 業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。
- 事業報告書の内容は真実であると認める。
- 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

2024年 5月 14日

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

監事

岸 知 二



2024 年度～2025 年度役員選任の件

役職	任期	氏名	備考
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	五十嵐淳	退任
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	五十嵐悠紀	再任候補
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	沢田篤史	退任
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	前田俊行	退任
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	松原繁夫	再任候補
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	森本千佳子	再任候補
理事	2022 年度総会～2024 年度総会	吉田則裕	再任候補
監事	2022 年度総会～2024 年度総会	位野木万里	再任候補
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	高田広章	任期中
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	鵜川始陽	任期中
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	川端英之	任期中
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	栗原一貴	任期中
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	小林隆志	任期中
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	齋藤新	任期中
理事	2023 年度総会～2025 年度総会	西崎真也	任期中
監事	2023 年度総会～2025 年度総会	岸知二	任期中
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	阿萬裕久	新任候補
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	五十嵐悠紀	再任候補
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	小林直樹	新任候補
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	松野裕	新任候補
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	松原繁夫	再任候補
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	森本千佳子	再任候補
理事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	吉田則裕	再任候補
監事候補者	2024 年度総会～2026 年度総会	位野木万里	再任候補

2023年度の役員・各種委員

理事

- 理事長: 高田広章
- 副理事長: 沢田篤史
- 2023年度選出: 鶴川始陽 川端英之 栗原一貴 小林隆志 齋藤新 西崎真也
- 2022年度選出: 五十嵐淳 五十嵐悠紀 前田俊行 松原繁夫 森本千佳子 吉田則裕

監事

- 2023年度選出: 岸知二
- 2022年度選出: 位野木万里

編集委員会

- 編集委員長: 河野健二
- 副編集委員長: 横山大作 林晋平
- 編集担当理事: 鶴川始陽 馬谷誠二
- 編集委員 青木利晃 阿萬裕久 五十嵐悠紀 石井大輔 伊藤恵
岩崎英哉 河合栄治 河内谷清久仁 川端英之 桑野文洋
小宮常康 沢田篤史 島慶一 杉浦裕太 住井英二郎
宋剛秀 高田真吾 千葉滋 中野圭介 花川典子
松田一孝 松野裕 松原克弥 門田暁人 山田浩史
吉田則裕

企画委員会

- 委員長: 五十嵐淳
- 企画担当理事: 五十嵐淳 松原繁夫
- 企画委員: 大嶽智裕 木下修司 佐藤直人 西山勇毅
前田直人 横山大作
- 研究会リエゾン委員: 阿萬裕久 井垣宏 伊藤貴之 鎌田篤慎
栗原聡 東藤大樹 松野裕 渡部卓雄

評議員

- 井上克郎 上田和紀 大沢英一 大須賀昭彦 大堀淳
笥捷彦 加藤和彦 亀山幸義 佐々政孝 佐藤周行
柴山悦哉 高橋和子 田中二郎 玉井哲雄 中島震
中島秀之 深澤良彰 二木厚吉 本位田真一 増原英彦
丸山宏 米崎直樹

役員候補者選考委員

- 2022年度選出: 丸山宏 小野寺民也 大須賀昭彦 大沢英一 千葉滋

2024 年度事業計画

1. 会員

会員を増やすための努力をするとともに、会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す。

2. 会議

2.1 2024 年度定時社員総会 (2024 年 6 月, 都内もしくはオンラインにて開催)

2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

2.3 役員会 (年 6 回以上開催)

2.4 評議員会 (年 1 回開催)

3. 事業活動

3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する。現在の特集号の充実を維持すると同時に、トピックス記事なども積極的に掲載し、より広く会員に読まれることを目指す。

会員が投稿しやすい機関誌を目指し、査読から掲載までのさらなる迅速化を図る。

特集号、推薦論文、大会同時投稿論文などを通して、研究会・大会との連携を深め、掲載論文の充実を図る。

読者にとって親しみやすい解説論文の掲載を目指す。

3.2 大会

第 41 回大会を以下の要領で開催する。

日 時： 2024 年 9 月 10 日 (火)~12 日 (木)
併設イベントは 9 月 9 日 (月) に開催予定
会 場： 立命館大学 大阪いばらきキャンパス (一部オンライン配信も検討中)

大会委員長： 丸山 勝久 (立命館大学)
運営委員長： 吉田 則裕 (立命館大学)
プログラム委員長： 松原 克弥 (公立はこだて未来大学)
登壇発表申込締切： 2024 年 7 月上旬
講演論文原稿締切： 2024 年 8 月中旬
デモ・ポスター発表申込締切： 2024 年 8 月中旬

3.3 講習会

学会会員サービスとしてチュートリアルを実施し、また、大会併設企画、および大会企画の立案・実施に協力する。2023 年度の実績も踏まえ、今後の実施の方向性について検討するとともに編集委員会との連携なども模索する。

3.4 研究会

次の 8 研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

(1) 「プログラミング論」研究会 (主査：中野 圭介)

- 運営委員会の構成の変更
 任期満了により、以下の運営委員（敬称略）の交替を予定している。
 退任（2名）：中野 圭介（東北大学）、寺内 多智弘（早稲田大学）、平石 拓（京都橘大学）
 新任（2名）：番原 睦則（名古屋大学）、安部 達也（千葉工業大学）、川端 英之（広島市立大学）
 2024 年度の運営委員は以下の 10 名である（五十音順）。
 安部 達也（千葉工業大学）、稲葉 一浩（Google）、上野 雄大（新潟大学）、海野 広志（筑波大学）、江本 健斗（九州工業大学）、川端 英之（広島市立大学）、小宮 常康（電気通信大学）、番原 睦則（主査：名古屋大学）、松田 一孝（東北大学）、渡部 卓雄（東京工業大学）
- コンピュータソフトウェア誌の「プログラミングおよびプログラミング言語」特集号 PPL 2024 の発表論文を発展させた論文、PPL 2024 での発表論文の中から推薦された論文（PPL 2024 推薦論文）、あるいはそれに限らず下記の対象分野に関連した論文を広く募集予定
- 第 21 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール（PPL Summer School 2024）の主催
 日本ソフトウェア科学会第 41 回大会 併設
 幹事：未定
- 第 41 回大会へのコーディネータ推薦を通じた協力
 大会 PPL コーディネータ：未定
- 第 27 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ（PPL 2025）主催
 日程：2025 年 3 月中
 プログラム共同委員長：塚田武志（千葉大学）、日高宗一郎（法政大学）
 組織委員長：堀江倫大（日本 IBM）
- FLOPS 2024 (The 17th International Symposium on Functional and Logic Programming) の主催
 In Cooperation With: ACM SIGPLAN
 日程：2024 年 5 月 15 日–17 日
 場所：熊本市国際交流会館（熊本市）
 General Chair：勝股 審也（国立情報学研究所）
 Program Co-Chairs：Jeremy Gibbons and Dale Miller
- 2024 年度運営体制
 - a) 主査
 番原 睦則（主査：名古屋大学）
 - b) リエゾン企画委員
 渡部 卓雄（東京工業大学）
 - c) 運営委員
 安部 達也（千葉工業大学）、稲葉 一浩（Google）、上野 雄大（新潟大学）、海野 広志（筑波大学）、江本 健斗（九州工業大学）、川端 英之（広島市立大学）、小宮 常康（電気通信大学）、番原 睦則（主査：名古屋大学）、松田 一孝（東北大学）、渡部 卓雄（東京工業大学）
 - d) 専門委員：なし

(2) 「マルチエージェントシステムと協調計算」研究会（主査：大園忠親）

- Symposium on Multi Agent Systems for Harmonization (SMASH) 共催
- 2024 年度運営体制
 - a) 主査
大園忠親 (名古屋工業大学)
 - b) リエゾン企画委員
東藤大樹 (九州大学)
 - c) 運営委員
櫻井祐子 (名古屋工業大学) 清雄一 (電気通信大学) 松井俊浩 (名古屋工業大学)
 - d) 専門委員
なし

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会（主査：志築文太郎）

- 第32回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2024)
主催: 日本ソフトウェア科学会 インタラクティブシステムとソフトウェア研究会
期間: 2024年11月27日(水)~29日(金), 12月11日(水)~13日(金), もしくは
12月18日(水)~20日(金) (予定)
場所: 未定
プログラム委員長 塚田浩二 (はこだて未来大)
実行委員長 渡邊恵太 (明治大) 副実行委員長 松村耕平 (立命館大)
収入予定 8,000,000 円、支出予定 8,000,000 円
- コンピュータソフトウェア誌への WISS 2024 推薦論文の提案
(WISS 2024 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定)
- 協賛予定
 - 情報処理学会エンタテインメントコンピューティング 2024
 - 電子情報通信学会 HCG シンポジウム 2024
 - 情報処理学会インタラクシオン 2025
- 2024 年度運営体制
 - a) 主査
塚田浩二 (はこだて未来大)
 - b) リエゾン企画委員
伊藤貴之 (お茶大)
 - c) 研究会運営委員
綾塚祐二 (クレスコ), 五十嵐悠紀 (お茶大), 伊藤貴之 (お茶大), 栗原一貴 (津田塾大), 寺田努 (神戸大), 志築文太郎 (筑波大), 丸山一貴 (明星大), 宮下芳明 (明治大), 脇田建 (東工大)
 - d) 専門委員
なし

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：沢田 篤史）

- ワークショップ 1 回開催
第 31 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2024
日程：2024 年 10 月 31 日 – 11 月 2 日（予定）
場所：佐賀県佐賀市（予定）
プログラム委員長：戸田 航史（九州工業大学），藤原 賢二（東京都市大学）
- コンピュータソフトウェア誌の「ソフトウェア工学の基礎」特集号（予定）
- 大会へのコーディネータ推薦を通じた協力（2024 年 9 月）
- 協賛予定の会議
機械学習工学研究会 シンポジウム
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム（SES2024）
ソフトウェアテストシンポジウム（JaSST）
enPiT-Pro スマートエスイー シンポジウム
- 2024 年度運営体制
 - a) 主査
沢田 篤史（南山大学）
 - b) リエゾン企画委員
阿萬 裕久（愛媛大学）
 - c) 研究会運営委員
なし
 - d) 専門委員
なし

(5) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田 俊行）

- 概要

2023年度までより引き続き、ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的にワークショップを開催する。

- 内容

第22回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2024) の開催

日時: 2024年12月頃

場所: 未定

幹事: 石井 大輔, 大場 勝, 木下 修司, 松野 裕, 松原 克弥

- 予算

収入: 300,000円

支出: 300,000円

- 2024年度運営体制

- a) 主査

前田 俊行 (千葉工業大学 人工知能・ソフトウェア技術研究センター)

- b) リエゾン企画委員

松野 裕 (日本大学)

- c) 運営委員

石井 大輔 (北陸先端科学技術大学院大学), 大場 勝 (アドバンテスト), 木下 修司 (東京都立産業技術大学院大学), 松野 裕 (日本大学), 松原 克弥 (公立ほこだて未来大学)

- d) 専門委員

なし

(6) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原 聡）

● 事業計画

「ネットワークダイナミクス」と「ネットワークが創発する知能」をキーワードとして、コンピュータサイエンス、物理学、化学、生物学、経済学、社会学など様々な分野の研究者の交流の場を提供するとともに、当分野における高いアクティビティの発揮を目指す。これまでの論文募集型のワークショップ形式から、少数セミクローズ型の討論優先型の開催形式にシフトさせる計画である。これは、学際的な本研究会ならではの、先んじた研究テーマ開拓や研究連携の立ち上げを模索できるメリットを活かすための転換である。

● 活動予定

WSSIT への合流

日程:2025 年 3 月を予定 場所:北海道

WSSIT (Workshop of Social System and Information Technology : 社会システムと情報技術研究ウィーク) は、人工知能学会「知識ベースシステム研究会」「社会における AI 研究会」「データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会」、情報処理学会「知能システム研究会 (旧知能と複雑系研究会)」、電子情報通信学会「人工知能と知識処理研究会」、情報処理学会「行動変容と社会システム研究会」、社会情報学会関西支部の 7 つの研究会に加え、2022 年度開催より日本ソフトウェア科学会「ネットワークが創発する知能研究会」も加わっての連続開催体制となりました。

● 2024 年度運営体制

a) 主査

栗原聡 (慶應義塾大学) (主幹事 風間一洋 (和歌山大学), 鳥海不二夫 (東京大学))

b) リエゾン企画委員

栗原聡 (慶應義塾大学)

c) 運営委員

栗原聡 (慶應義塾大学), 風間一洋 (和歌山大学), 中島秀之 (札幌市立大学), 松尾豊 (東京大学)

d) 専門委員 (当研究会ではプログラム委員会と呼称)

秋山英三 (筑波大学), 和泉潔 (東京大学), 今井哲朗 (東京情報大学), 岩田学 (筑波大学), 白井翔平 (株式会社 ELYZA), 岡田勇 (創価大学), 小川祐樹 (立命館大学), 海蔵寺大成 (国際基督教大学), 川村秀憲 (北海道大学), 小島一浩 (産業技術総合研究所 (AIST)), 五斗進 (京都大学), 菅原俊治 (早稲田大学), 相馬亘 (日本大学), 斉藤和巳 (静岡県立大学), 佐藤進也 (日本工業大学), 榎剛史 (東京大学), 諏訪博彦 (奈良先端科学技術大学院大学), 苑田義明 (三菱重工業), 高野雅典 (株式会社サイバーエージェント), 谷本潤 (九州大学), 鳥海不二夫 (東京大学), 館健太郎 (駒沢大学), 辻竜平 (近畿大学), 内藤祐介 (人工生命研究所), 中村真理 (産業技術総合研究所), 生天目章 (AFOSR), 西成活裕 (東京大学), 廣津登志夫 (法政大学), 福田健介 (国立情報学研究所 (NII)), 藤原義久 (兵庫県立大学), 前野義晴 (日本電気株式会社), 松林達史 (株式会社 ALBERT), 三宅美博 (東京工業大学), 水野誠 (明治大学), 村田剛志 (東京工業大学), 守真太郎 (北里大学), 安田雪 (関西大学), 柳井孝介 (日立製作所), 山本仁志 (立正大学), 我妻広明 (九州工業大学)

(7) 「実践的 IT 教育」研究会（主査：福安 直樹）

- コンピュータソフトウェア誌 rePiT 特集号
2024 年 6 月 30 日投稿締切の rePiT 特集号を企画している。
- 第 11 回実践的 IT 教育研究シンポジウム (rePiT2025) の開催
2025 年 1 月ないし 2 月頃に、第 11 回実践的 IT 教育研究シンポジウムを開催する予定である。
- 2024 年度収支計画
収入：100,000 円
支出：100,000 円
収支：0 円
- 2024 年度運営体制
 - a) 主査
福安 直樹（大阪工業大学）
 - b) リエゾン企画委員
井垣 宏（大阪工業大学）
 - c) 運営委員
市川 尚（岩手県立大学）、伊藤 恵（公立はこだて未来大学）、大久保 隆夫（情報セキュリティ大学院大学）、大場 みち子（京都橘大学）、桑野 文洋（日本工業大学）、田原 康之（電気通信大学）、名倉 正剛（南山大学）、橋本 正樹（情報セキュリティ大学院大学）、樋山 淳雄（東京学芸大学）、藤原 賢二（東京都市大学）、本田 澄（大阪工業大学）、榎原 絵里奈（立命館大学）、森本 千佳子（東京理科大学）、吉岡 信和（早稲田大学）、吉田 則裕（立命館大学）
 - d) 専門委員
なし

(8) 「機械学習工学」研究会（主査：今井 健男）

- イベント予定
 - － 2024年7月4日～6日 第7回機械学習工学研究会（MLSE 夏合宿 2024）・オンライン開催
 - － 2025年2月末～3月初旬頃 第2回機械学習工学ワークショップ（MLSE 冬合宿 2025）・オンサイト開催
 - － 機械学習オペレーションワーキンググループ 集会1回、事例集出版予定（2024年8月）
 - － AI倫理と公平性ワーキンググループ 集会4回
 - － 機械学習システムセキュリティワーキンググループ集会4回

- 予算案

第7回機械学習工学研究会 収入30万 支出30万

第2回機械学習工学ワークショップ 収入50万 支出50万

運営委員会経費（ビデオ会議やオンライン議論のためのツール利用料） 収入0万 支出5万

計 収入80万 支出85万

※ 繰越金85万：無料イベントのサポート（ビデオ会議や配信の利用料等）にあてる

- 2024年度運営体制

- a) 主査

- 今井 健男（ぼのたけ/国立情報学研究所）

- b) リエゾン企画委員

- 鎌田 篤慎（LINE ヤフー）

- c) 運営委員

- 石川 冬樹（国立情報学研究所），鶴林 尚靖（九州大学），江澤 美保（クレスコ），鎌田 篤慎（LINE ヤフー），久連石 圭（東芝），杉山 阿聖（Citadel AI），竹内 広宜（武蔵大学），土肥 拓生（ライフマティックス），徳本 晋（富士通），橋本 順之（グリーン），原 聡（大阪大学），丸山 宏（花王），吉岡 信和（早稲田大学），吉崎 亮介（キカガク），吉田 則裕（立命館大学）

- d) 専門委員

- なし

3.5 広報

本学会 Web ページ，会員メーリングリスト，Twitter 等の電子的な広報手段を整備・活用し，有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する。

3.6 賞の選考

フェロー，功労賞，基礎研究賞・業績賞，研究論文賞，解説論文賞，高橋奨励賞を選考する。

2024 年度予算

2024 年度の単年度予算としては収入 41,194,000 円、支出 41,050,000 円を計上している。

1. 予算方針

近年の決算において、本学会の財務収支は支出が収入を上回る状況が続いている。2020 年 3 月の会員数(正会員：726 名、学生会員：38 名、準会員：18 名、団体会員：6 名、賛助会員：8 口)と 2024 年 1 月の会員数(正会員：644 名、学生会員：25 名、準会員：16 名、団体会員：5 名、賛助会員：8 口)とを比較すると会員数は減少しており、今後も厳しい財務状況が続くと予想され、正会員、学生会員ともに新規会員の方策を検討する必要がある。

2. 各費目の計上理由

入会金・会費収入予算は、前述の 2024 年 1 月の会員数(正会員：644 名、学生会員：25 名、準会員：16 名、団体会員：5 名、賛助会員：8 口)を基に見積もっている。研究活動費に関しては、研究論文賞 2 件、ソフトウェア論文賞 1 件、高橋奨励賞 2 件分の予算、各表彰の際に手渡すトロフィー等の表彰アイテムの予算を計上している。大会については、昨年度までの過去の決算から収入、支出を見積もり、大会単体では黒字となる予算としている。機関誌購入費については、部数を減らして費用削減を図っており、サイバーページのボリュームも含めて、昨年度と同程度に見積もっている。機関誌業務費については、機関誌に付随する発送費・発送手数料、著者負担金請求手数料等を計上している。講習会については、1 回のみで開催予定として見積もっている。委託手数料については、ホームページ管理者および会計管理のための税理士への委託料を計上している。また、消費税および住民税の概算額を租税公課に計上している。事務局費については、案内通知、督促状等、会員管理・会計等の年間業務委託費を計上し、事務局変動費として、機関誌、資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上している。これらの事業に関しては、支出超過の計画となっている。これには、コロナ禍による大会スポンサー収入の減収も織り込んでいる。一層の経費削減に加え、会費収入および講習会等のイベント収入を増やす方策を検討する必要がある。基礎研究賞事業については、昨年度と同じ収支を予定している。研究会事業については、各研究会の参加費等による収入と、研究会実施のための支出を計上している。会員への還元、研究会活動の活性化を目的として、これまでの繰越金を支出することを予定しており、全体としては支出超過の計画となっている。

収支予算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
学会本部事業	14,100,000	14,400,000	-300,000
入会金・会費収入	8,300,000	8,900,000	-600,000
大会収入	2,400,000	2,400,000	0
機関誌収入	3,000,000	2,700,000	300,000
講習会収入	200,000	200,000	0
雑収入	200,000	200,000	0
基礎研究賞事業	200,000	200,000	0
基礎研究賞副賞収入	200,000	200,000	0
研究会事業	26,894,000	19,251,000	7,643,000
PPL	6,000,000	6,000,000	0
MACC	100,000	100,000	0
ISS	15,194,000	8,001,000	7,193,000
FOSE	5,000,000	4,000,000	1,000,000
DSW	150,000	600,000	-450,000
EIN	50,000	100,000	-50,000
rePiT	100,000	100,000	0
MLSE	300,000	350,000	-50,000
事業活動収入計	41,194,000	33,851,000	7,343,000
2. 事業活動支出			0
学会本部事業	16,162,000	16,030,000	132,000
研究活動費	320,000	320,000	0
大会業務費	2,200,000	2,200,000	0
機関誌購入費	8,670,000	8,670,000	0
機関誌業務費	852,000	850,000	2,000
講習会業務費	200,000	200,000	0
委託手数料	250,000	250,000	0
租税公課	250,000	120,000	130,000
事務局費	2,600,000	2,600,000	0
事務局変動費	310,000	310,000	0
雑費	500,000	500,000	0
予備費	10,000	10,000	0
査読システム利用費	0	0	0
基礎研究賞事業	200,000	200,000	0
基礎研究賞副賞支出	200,000	200,000	0
研究会事業	26,894,000	19,500,000	7,394,000
PPL	6,000,000	6,000,000	0
MACC	100,000	100,000	0
ISS	15,194,000	8,100,000	7,094,000
FOSE	5,000,000	4,100,000	900,000
DSW	150,000	600,000	-450,000
EIN	50,000	100,000	-50,000
rePiT	100,000	100,000	0
MLSE	300,000	400,000	-100,000
事業活動支出計	43,256,000	35,730,000	7,526,000
事業活動収支差額	-2,062,000	-1,879,000	-183,000
(内、学会本部事業)	-2,062,000	-1,630,000	-432,000
(内、基礎研究賞事業)	0	0	0
(内、研究会事業)	0	-249,000	249,000
前期繰越収支差額	41,716,349	42,256,677	-540,328
次期繰越収支差額	39,654,349	40,377,677	-723,328